

令和3年11月1日

保護者様

富士市立丘小学校
校長 田中 尚志

令和3年度 前期学校評価アンケート集計結果について

新型コロナウイルス感染対策の緊急事態宣言が解除され、学校では、感染防止の対策を続けながら、子どもたちの学習を進めています。保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

7月に集計した、全校児童及び全ての保護者、教職員を対象に実施した「学校評価アンケート」の結果を報告いたします。アンケート結果から、本校の教育活動の成果と課題が見えてきました。

この結果を今後の丘小の教育活動に生かしていきたいと思っております。保護者の皆様、今後ともどうぞ御協力をよろしくお願いいたします。

「とてもそう思う」「どちらかというと思う」の割合の合計（学校全体約800名）

No.	アンケート項目	R 3 前期	R 2 後期	増減
①	学校では、楽しく生活ができています。	95.8%	96.6%	↓
②	友達と協力して生活ができています。	93.8%	97.9%	↓
③	進んであいさつをしている。	89.9%	90.4%	↓
④	先生は、話を聞いてくれる。	97.4%	81.6%	↑
⑤	学校の授業はわかりますか。	92.9%	95.3%	↓
⑥	正しい言葉づかい、ふわふわ言葉で話している。	89.3%	81.5%	↑
⑦	自分の意見や思いを友達や周りの人に伝えている。	85.0%	85.7%	↓
⑧	先生や友達の話をしっかり聴くことができています。	94.1%	93.3%	↑
⑨	決まった時間、家庭学習、宿題や自主勉強をやっている。	88.7%	90.4%	↓
⑩	授業で学習したことをきちんと理解している。	92.7%	—	
⑪	ICT機器、パソコン、タブレットなどを授業で活用している。	95.0%	—	
⑫	よいこと悪いことの判断ができています。	94.9%	—	
⑬	自分から進んで読書をしている。	83.4%	76.5%	↑
⑭	休み時間は、元気に運動ができています。	81.4%	80.3%	↑
⑮	勉強や生活に、めあてをもって取り組んでいる。	88.9%	83.8%	↑
⑯	自分の命は、自分で守っている。(交通安全、不審者対応など)	96.7%	—	
⑰	苦手な食べ物でも、少しは食べるようにしている。	92.3%	—	
⑱	身の回りの整理整頓ができています。	82.9%	79.1%	↑
⑲	だまってそうじをしている。	88.0%	89.6%	↓
⑳	丘の子のやくそくを守っている。	94.8%	92.5%	↑
㉑	自分には、よいところがある、と思う。	84.9%	80.5%	↑
㉒	怪我に気をつけて生活していますか。	92.6%	90.0%	↑
㉓	朝ごはんを毎日食べていますか。	95.0%	94.9%	↑

昨年度の後期の結果と比較しました。どの項目も 80%を超えているので、ほとんどの児童が、丘小学校に対してよい印象をもってきているので、安心しました。コロナ禍で行事などができなかったり、授業や給食などで窮屈な生活を送っていたりする中でも、前向きな気持ちで生活してくれていたことをうれしく思います。

【考察】

- もっとも数値が高かった④の「先生は話を聞いてくれる。」は、丘小の先生方が、児童に対して向けている思いが伝わっていると感じている。信頼関係は、ちょっとしたボタンの掛け違いで崩れてしまうものなので、今後も信頼関係を維持し続けられるように、学校全体で強く意識して取り組んでいきたい。
- ⑬の「自分から進んで読書をしている。」が、昨年度後期より 7 ポイントほど上がっています。コロナ禍で教室で過ごす時間が増え、友達と話すことも制限されているので、今までよりも読書をする時間が増えています。読書の楽しさを知り、これからも積極的に読書をする児童が増えていくといいなと思います。

△①の「学校では楽しく生活ができている。」が高い数値なのもうれしい結果です。しかし、昨年度の後期から少し下がっているのは、コロナの影響で児童の楽しみが減っていることが予想されます。今後感染が終息に向かって学校生活でできることが増えていくともっと高い数値になると考えられます。

△子どもたちの評価の中で 1 番目に低かった項目は、⑭の「休み時間は、元気に運動ができている。」でした。これもコロナ禍で、密を避けるために運動場での遊びを制限された結果だと思えます。今は、運動場で遊べるようになり、後期は、改善されると考えられます。

△⑯の「身の回りの整理整頓ができている。」が 2 番目に低いですが、昨年度後期に比べると 4 ポイント上がっています。今後も改善していくように指導していきますので、家庭でも声掛けをお願いします。

《児童と大人のとらえで大きく差が出ていたもの》

• 進んであいさつをしている

思う児童 65.9% 思う保護者 37.7% 思う教員 3.8%

あいさつも、子どもたちは進んで行っていると感じていますが、大人たちはもう少しできてほしいと感じていることが分かります。

学校でも家庭でも大人が先に声を掛けてしまうので、「進んで」というと「どうかな?」と思ってしまうようです。

• 正しい言葉遣いをしている

思う児童 53.4% 思う保護者 27.4% 思う教員 7.7%

言葉づかいについても、同様な傾向が見られました。

大人たちが目指す高さ、子どもたちが目指している高さには違いがあると思います。子どもたちの努力も認めていきながら、もう一歩踏み出せる支援をしていきましょう。大人が手本となることも大切です。

《保護者アンケート集計結果より》

○「お子さんの成長について」抜粋

1年生

- ・宿題に取り組む姿、わからないことをわかろうとする姿、次を上手に書こうとする姿を見て毎日頑張ってるなと思います。
- ・少しずつクラスの子とも話せるようになってきたみたいで、よく話をしてくれます。
- ・楽しんで通っているので安心している。

2年生

- ・学校生活にも慣れてきて、楽しそうに登校する日が増えてきているように感じます。
- ・勉強で分からないところをそのままにせず、自分から聞いてくるようになりました。
- ・人にわかりやすいように、順序だてて話ができるようになった。

3年生

- ・家に帰ってきたら、自分で始める時間を決めて宿題に取り組んでいる姿に成長できたなと思います。
- ・いろいろ不安はありますが、運動が大好きで元気に学校生活が遅れているようで嬉しく思っています。
- ・3年生になり、友達との付き合いが出てきて、成長を感じます。

4年生

- ・次の日の支度を朝もう1度確認し、忘れ物をしないように努力している。
- ・4年生になり、親に言われる前に、自分のことは進んで取り組めるようになった。
- ・先を見据えて行動ができるようになってきたと感じる。

5年生

- ・高学年としての自覚を持っているようで、学校のこと（宿題など）は頑張っていると思う。
- ・自分の意見をはっきりともち、時には親と違う意見を持ち反発することもあります、それも成長と思っています。
- ・高学年になり、リーダーシップをとる場面も増え、意欲的に委員会等に取り組んでいると感じています。

6年生

- ・学校をなるべく休まないよう、毎日目標を決めて努力しようとしている。
- ・次の日の予定内容を話すことが増えてきたのと、疲れていても宿題をきちんとやるところが、6年生になったなと思います。
- ・6年生になり、親より友達との関わりで大切なことを学んでいると思います。

いずみ

- ・去年より、落ち着いて学校生活を送れる日が増え、成長を感じます。
- ・大きな声であいさつができるようになりました。
- ・学校に行くのが楽しいみたいです。

「できることが増えて成長を感じている」という多くの意見が寄せられました。発達段階に応じて、学校・家庭・身の回りの社会から様々なことを学んでいることが分かります。また、「学校は楽しいようです」という意見も多くうれしく思います。

●保護者の気がかりな点

3（どちらかというと思わない）4（そう思わない）の合計が高かったもの

整理整頓ができている	50.6%
進んで読書をしている	45.5%
ICT機器、パソコン、タブレットなどを授業で活用している。	25.1%

☆その他の御意見に対して

- ・コロナ禍で体を動かす機会が少なくなっているという不安な声が多く寄せられました。体力の低下とともにストレス発散ができないことも心配です。緊急事態宣言の解除から感染者数が減ってきていますので、感染の予防は続けながら、子どもたちの活動の幅を広げていきます。体を動かす機会も増やしていきます。
- ・マチコミメールについて、「きめ細かい連絡がありがたい」という意見と「仕事だとは見ることができない」と不安を感じている意見がありました。今後もできるだけきめ細かくお伝えするように努めていきます。また、気象等により緊急な連絡をして引き取りをお願いする場合は、お迎えが来るまで学校でお預かりをするなどの対応をしていきたいと思っております。家庭でももしもの時の対応を話し合っておいてください。

《教員アンケート集計結果より》

●課題を感じる点 3（どちらかというと思わない）4（そう思わない）の合計が高かったもの

怪我に気を付けて生活している	34.6%	（児童： 7.4%）
身の回りの整理整頓をしている	26.9%	（児童： 17.1%）
黙って掃除をしている	26.9%	（児童： 12.0%）
自分の命は、自分で守っている	24.0%	（児童： 3.3%）

相変わらず、怪我についての認識が、児童と教員のとらえの隔たりが大きいです。子どもたちの92.6%は「怪我に気を付けて生活している」ととらえていますが、教員の34.6%はそうではないと感じています。怪我を減らすための声掛けや働き掛けを昨年度以上にしてきました。現在のところ、病院に通うほどの怪我の発生も報告されています。コロナ禍で外に出られない分、教室や廊下での怪我が多く感じます。今後、体育の授業や外遊び等で思いっきり体を動かせるようになると校舎内での怪我が減っていくと考えられます。